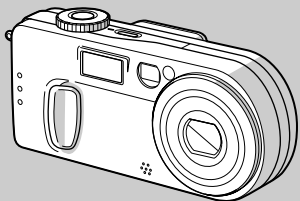
SONY

3-075-510-**02** (1)

取扱説明書

サイバーショット応用編／困ったときは

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット基本編」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DSC-P2

© 2002 Sony Corporation

別冊の
「サイバーショット基本編」
もご覧ください。

目次

操作の前に

静止画を撮る（応用）

静止画を見る（応用）

静止画を編集する

動画を撮る

静止画／動画を楽しむ

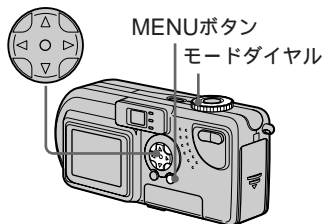
困ったときは

その他

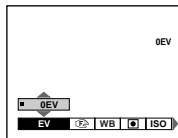
別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊基本編 ➡ ページ番号**」のようにご案内しています。

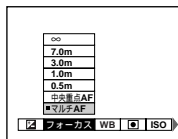
本機の設定／操作のしかた

ここでは、本書でよく使われるメニューやSET UP画面の使いかたをまとめて説明します。

コントロールボタン

メニューの設定を変える

1 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

2 コントロールボタンの◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

選ばれた項目の文字・記号が黄色に変わります。

3 コントロールボタンの▲/▼を押し、設定を選ぶ

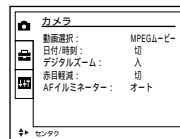
選ばれた設定の枠が黄色に変わり、そのまま決定されます。

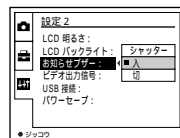
メニュー表示をやめるには

MENUボタンを押します。

SET UP画面の設定を変える

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

2 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

選ばれた設定の枠は黄色に変わります。

3 コントロールボタンの中央の●を押し、設定（実行）する

SET UP画面表示をやめるには

モードダイヤルを「SET UP」以外にします。

ピント合わせの方法を選ぶ

モードダイヤル：/SCN/

マルチポイントAF

AF測距枠の幅が広くなります。

中央重点AF

AF測距枠が中央部分だけになります。

1 **モードダイヤルを「」、「SCN」、「」のいずれかにする**

2 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［］（フォーカス）、▲/▼で［マルチAF］または［中央重点AF］を選ぶ**

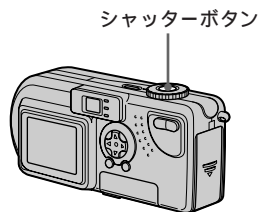
自動ピント合わせをします。ピントが合うとAF測距枠の色が白から緑色に変わります。

マルチポイントAF

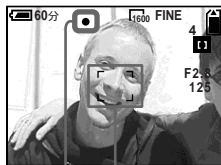
中央重点AF

- 動画（MPEGムービー）撮影時、マルチポイントAFを選ぶと画面中央部分を平均的に測距し、手振れに強いAFが可能です。中央重点AFの場合は、中央部分のみで測距するため、狙った部分のピント合わせに便利です。
- デジタルズームやAFイルミネーターを使用する時は、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、AF測距枠は表示されません。

中央重点AFでAFロック撮影をする

被写体がフレームの中心になくピントを合わせづらい場合でも、中央重点AFで上手に撮影することができます。
たとえば、2人の人物を撮るとき、中央に隙間があると、背景にピントが合う場合があります。このようなときは、AFロックを使用し、ピントをねらった被写体に合わせて撮影します。

• AFロックを使うと、画面端に被写体があるときにも、ピントが合った画像を撮ることができます。

1 被写体がAF測距枠内に入るように構図を変え、シャッターボタンを半押しする

まず、ねらった被写体にピントを合わせます。AE/AFロック表示が点滅から点灯に変わると「ピピッ」と音がしてピント合わせ完了です。

2 半押しのまま構図を戻して、シャッターボタンをさらに押し込む

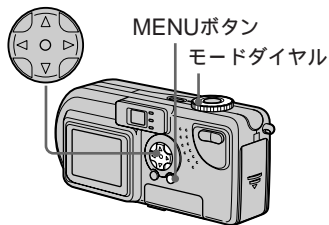
「カシャッ」と音がして、人物にピントが合った状態で撮影されます。

• AFロックの操作はシャッターボタンを押し込む前であれば、何回でもやり直せます。

被写体までの距離を設定する – フォーカスプリセット

モードダイヤル：/SCN/

被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ設定して撮影するときや、網や窓ガラス越しの被写体の撮影など、オートフォーカスが効きにくいときにフォーカスプリセットを使うと便利です。

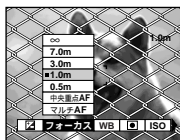
コントロールボタン

1 モードダイヤルを「」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［］（フォーカス）、▲/▼で被写体までの距離を選ぶ

被写体までの距離は次の中から選べます。

0.5m、1.0m、3.0m、7.0m、∞（無限遠）

オートフォーカスに戻すには

MENUボタンをもう1度押して、［］（フォーカス）を選び、［マルチAF］または［中央重点AF］を選びます。

- フォーカス距離の設定は多少の誤差を含んでいます。目安としてお使いください。
- レンズを上や下に向けると誤差は大きくなります。

露出を補正する

– EV補正

モードダイヤル：/SCN/

自動的に決定された露出を撮影者の意図する露出に変えるときに使います。

補正する数値は＋2.0EVから－2.0EVの範囲で、1/3EVきざみで設定することができます。

1 モードダイヤルを「」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［］（EV）を選ぶ

露出補正値が表示されます。

4 補正値を選ぶ

▲/▼で露出補正値を選びます。

被写体の背景の明るさを液晶画面で確認しながら調節してください。

自動露出に戻すには

露出補正値を0EVに戻します。

- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュを使って撮影したときは、設定した補正が効かないことがあります。

撮影のテクニック

通常の撮影時、本機は自動で露出を補正しています。撮影画像を確認し、下の画像のようになっていたら、手動調節することをおすすめします。逆光の人物や雪景色で撮影するときは＋の方向に、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときなどは－方向に補正すると効果的です。

露出不足 → ＋方向に補正

適正な露出

露出過剰 → －方向に補正

スポット測光

モードダイヤル：[camera icon]/SCN/[movie icon]

逆光のときや、被写体と背景とのコントラストが強いときでも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。撮りたいポイントをスポット測光照準に合わせて撮ります。

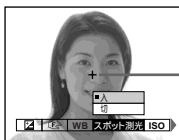
コントロールボタン

1 モードダイヤルを「📷」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［◉］（スポット測光）、▲/▼で［入］を選ぶ

スポット測光照準が表示されます。

4 スポット測光照準を撮影したいポイントに合わせて撮影する

スポット測光を解除するには

手順3で［切］を選びます。

画面からスポット測光照準が消え、通常の測光に戻ります。

色合いを調節する

– ホワイトバランス

モードダイヤル：📷/SCN/🎞

オート撮影のときは、撮影状況に応じてホワイトバランスが自動的に設定され、全体の色のバランスが調整されます。撮影条件を固定したいときや特定の照明状態で撮影するときは、マニュアルで設定することができます。

オート（表示なし）

ホワイトバランスを自動調節する。

☀（太陽光）

戸外で撮るときや夜景やネオン、花火や日の出、日没などを撮る場合

☁（曇天）

くもり空のときに撮影する場合

蛍光灯アイコン（蛍光灯）

蛍光灯の下で撮影する場合

電球アイコン（電球）

- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下
- ナトリウムランプ、水銀灯の下

1 モードダイヤルを「📷」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［WB］（ホワイトバランス）、▲/▼で希望の設定を選ぶ

自動調節に戻すには

手順3で［オート］を選びます。

- ちらつきのある蛍光灯下では、［蛍光灯アイコン］を選んでも画像全体の色の感じが変化して見えることがあります。
- フラッシュ発光時にはマニュアルの設定が解除され、オートモードで撮影されます。

コマ送りの画像を撮る

– クリップモーション

撮影のテクニック

被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。夏の太陽のような光の下ではすべてのものが青っぽく見え、電球のような光源の下では白いものが赤っぽく見えます。人間の目にはすぐれた調節機能があり、光が変わってもすぐに正しい色を認識できます。しかし、デジタルスチルカメラは光の影響を大きく受けます。通常、本機は調節を自動で行っていますが、撮影画像を再生してみて画面全体が不自然な色合いのときはホワイトバランスの設定をすることをおすすめします。

モードダイヤル：

静止画（GIFアニメ）を連続して撮影できます。ファイル容量が小さいので、ホームページに載せたり、Eメールに添付したりするときに便利です。

- クリップモーションの撮影に使用する色の数は256色以下に制限されています。これはGIF形式の記録の特性によるものです。このため、画像によっては画質が落ちることがあります。

ノーマル（160×120）
最大10コマのクリップモーションを撮影できます。ホームページなどでの利用に適しています。

モバイル（120×108）
最大2コマのクリップモーションを撮影できます。携帯電話などでの利用に適しています。

- モバイルモードは、ファイルサイズを小さく抑えているため画質が落ちます。
- クリップモーションの撮影枚数は51ページをご覧ください。

操作の前に

SET UPの［動画選択］を［クリップモーション］にしておきます（4、57ページ）。

コントロールボタン

1 モードダイヤルを「」にする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［］（画像サイズ）、▲/▼で希望のモードを選ぶ

4 1コマ目の撮影をする

5 次のコマを撮影する

撮りたいコマ数だけシャッターボタンを押し、繰り返し撮影します。

6 中央の●を押す

全コマが“メモリースティック”に記録されます。

撮影した画像を途中で削除する

1 手順4または5で、◀（ ）を押す。

撮影した画像が順番に再生され、最後の画像で止まります。

2 MENUボタンを押し、メニューから［最後のみ削除］または［すべて削除］を選び、中央の●を押す。

3 ［実行］を選び、中央の●を押す。

手順**2**で［最後のみ削除］を選んだ場合は、手順**1**から**3**を繰り返すと、新しい画像から順に削除されていきます。

- 手順6を行わないと、画像は“メモリースティック”に記録されません。それまでは、本機に一時的に記録されています。
- クリップモーションでは、日付・時刻は挿入されません。
- クリップモーションをインデックス画面で見ると、実際の画像と違って見える場合があります。
- 本機以外で作成したGIFファイルは、本機では正しく表示されない場合があります。

マルチ連写で画像を撮る

– マルチ連写

モードダイヤル：

一度のシャッターで16コマの画像を連写します。スポーツのフォームチェックなどに適しています。

操作の前に

SET UPの［動画選択］を［マルチ連写］にしておきます（4、57ページ）。

コントロールボタン

1 モードダイヤルを「🎞」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［▪▪⊞］（インターバル）、▲/▼でコマ間の希望のインターバルを選ぶ

コマ間のインターバルはメニュー画面の設定項目から選べます（55ページ）。

4 シャッターボタンを押す

16コマの画像を1枚の画像（画像サイズ1280×960）として記録します。

撮影した画像を削除する

このモードでは希望のコマのみを削除することができません。削除を選び実行すると、16コマすべてが削除されます。

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 MENUボタンを押しメニューから［削除］を選び、中央の●を押す。

3 ［実行］を選び、中央の●を押す。
すべてのコマが削除されます。

- マルチ連写で撮った画像を本機で再生すると、16コマの画像が一定の間隔で順番に再生されます。
- パソコンで再生すると撮影された16コマが1枚の画像として同時に表示されます。
- マルチ連写機能のないカメラで再生した場合、パソコンと同様に16分割された画像で表示されます。
- 撮影枚数は51ページをご覧ください。
- フラッシュは使えません。
- 日付・時刻は挿入されません。

Eメール添付用の画像を撮る – Eメール

モードダイヤル：📷/SCN

Eメール添付に適した、小さいサイズの画像を撮影します。
別冊基本編 ➡ 17ページで選択したサイズの静止画も同時に記録されます。

1 モードダイヤルを「📷」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［Eメール］の順に選ぶ

4 撮影する

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選びます。

- 撮影した画像をEメールソフトウェアに添付する方法については、お使いのソフトウェアのヘルプをご覧ください。

画像に音声を記録する
– ボイスメモ

モードダイヤル：📷/SCN

静止画の撮影時に、音声もいっしょに記録します。

1 モードダイヤルを「📷」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［ボイスメモ］の順に選ぶ

4 撮影する
シャッターボタンをポンと1回押すと
5秒間音声が記録されます。

シャッターボタンを押し続けると
押し続けている間音声が記録されます（最長40秒間）。

通常撮影に戻すには
手順3で［通常撮影］を選びます。

- ボイスメモで撮影した画像を見るには「液晶画面で動画を見る」（23ページ）と同じ操作を行ってください。

画像に特殊効果を加えて撮る – ピクチャーエフェクト

モードダイヤル：📷/SCN/🎞

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

ソラリ

明暗をはっきりさせたイラストのように

モノトーン

白黒に

セピア

古い写真のような色合いに

ネガアート

写真のネガフィルムのように

1 モードダイヤルを「📷」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

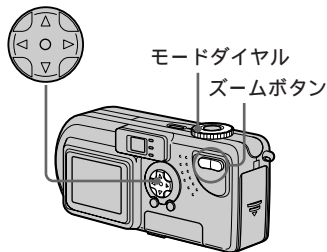
2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［PFX］（P.エフェクト）、▲/▼で希望のモードを選ぶ

ピクチャーエフェクトを解除するには
手順3で［切］を選びます。

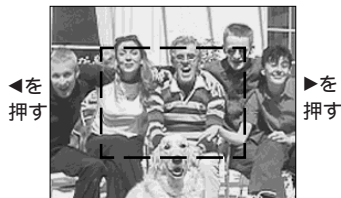
画像を拡大する – 再生ズーム

モードダイヤル：▶

撮影した画像を元の画像の5倍まで拡大することができます。また、拡大した画像を新しいファイルとして記録することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 拡大したい画像を表示する

3 ズームTボタンを押して、画像を拡大する

4 ▲/▼/◀/▶を繰り返し押して、拡大したい部分を選ぶ

▲：画像の上側を見るとき
▼：画像の下側を見るとき
◀：画像の左側を見るとき
▶：画像の右側を見るとき

5 ズームTボタンを繰り返し押して、手順4で選んだ部分を拡大する

拡大表示をやめるには

中央の●を押します。

- 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像は再生ズームできません。
- 拡大していない画像が表示されているときにズームWボタンを押すと、インデックス画面に切り換わります（**別冊基本編** ➡ 30ページ）。
- クイックレビュー（**別冊基本編** ➡ 20ページ）で表示した画像も手順3から5の操作で拡大することができます。

拡大した画像を記録する
– トリミング

1 再生ズーム後にMENUボタンを押す

2 ▶で［トリミング］を選び、中央の●を押す

3 ▲/▼で画像サイズを選び、中央の●を押す

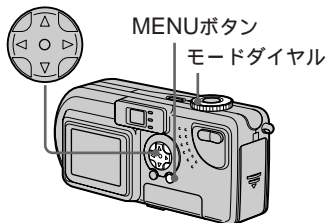
画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録され、元の画像は残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。

連続して再生する
– スライドショー

モードダイヤル：▶

撮影した画像を順番に再生します。画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

コントロールボタン

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［スライドショー］を選び、中央の●を押す

下記の設定を選んでください。

間隔設定

3秒／5秒／10秒／30秒／1分

繰り返し

入： 繰り返し再生される。

切： すべての画像が再生されると、スライドショーは終わる。

4 ▲/▼/◀/▶で［スタート］を選び、中央の●を押す

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには

手順3で［キャンセル］を選び、中央の●を押します。

スライドショーの再生を中止するには

中央の●を押して、▶で［終了］を選び、●を押します。

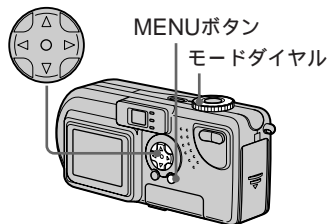
静止画を回転する

スライドショー再生中に画面を送る／戻すには

▶（送り）または◀（戻し）を押します。

- ［間隔設定］の設定時間は目安です。再生画像のサイズなどにより、変わることがあります。

モードダイヤル：▶

カメラを縦にして撮影した画像を、回転して表示することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［回転］を選び、中央の●を押す

4 ▲/▼で［↶ ↷］を選び、◀/▶で画像を回転させる

5 ▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す

回転を中止するには

手順4で［キャンセル］を選びます。

- プロテクトされている画像／動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

画像を保護する

– プロテクト

モードダイヤル：▶

大切な画像を誤って消さないように保護します。

シングル画面のとき

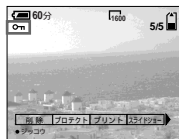
1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［プロテクト］を選び、中央の●を押す

表示されている画像にプロテクトがかかり、⊶（プロテクト）マークがつきます。

プロテクト指定を解除するには

手順4でもう1度中央の●を押します。⊶マークが消えます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを1回押してインデックス（9枚表示）画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［プロテクト］を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

5 プロテクトしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に⊶（プロテクト）マークがつきます。

6 他の画像もプロテクトするときは、手順5を繰り返す

静止画を編集する

7 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

8 ▶で［実行］を選び、中央の●を押す

選択した画像にプロテクトがかかります。

プロテクトを中止するには

手順**4**で［キャンセル］を、または手順**8**で［終了］を選びます。

プロテクト指定を解除するには

手順**5**でプロテクトを解除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押します。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。次にMENUボタンを押し、［実行］を選び、中央の●を押します。

すべての画像をプロテクトするには

手順**4**で［全画像］を選び、中央の●を押します。次に［入］を選び、中央の●を押します。

すべての画像のプロテクト指定を解除するには

手順**4**で［全画像］を選び、中央の●を押します。次に［切］を選び、中央の●を押します。

インデックス（3枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームW**ボタンを**2**回押して、インデックス（**3**枚表示）画面にする**

2 ◀/▶でプロテクトをかけたい画像を中央に表示する

3 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

4 ▲/▼で［プロテクト］を選び、中央の●を押す

画面中央の画像にプロテクトがかかり、O━┳（プロテクト）マークがつきます。

5 他の画像もプロテクトするときは、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を中央に表示し、手順4を繰り返す

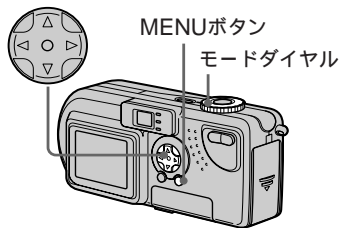
プロテクト指定を解除するには

手順4でプロテクトを解除したい画像を選び、中央の●を押します。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。

画像のサイズを変える

– リサイズ

モードダイヤル：▶

撮影した画像のサイズを変えて、新しいファイルとして記録できます。
下記のサイズに変えられます。
1600×1200、1280×960、
640×480
リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でサイズを変えたい画像を表示する

3 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［リサイズ］を選び、中央の●を押す

5 ▲/▼で変更したいサイズを選び、中央の●を押す
リサイズした画像は一番新しいファイルとして記録されます。

リサイズを中止するには

手順5で［キャンセル］を選びます。

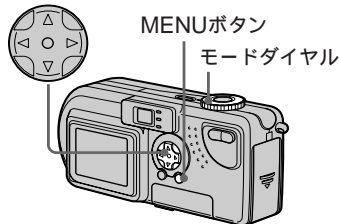
- 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像はリサイズできません。
- 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、画像の上下に黒い帯が入ります。

プリントしたい画像を選ぶ

– プリントマーク

モードダイヤル：▶

プリントしたい画像を指定します。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店で画像をプリントするときなどに便利です。

コントロールボタン

- 動画（MPEGムービー）、クリップモーションで撮影した画像はプリントマークはつけられません。
- Eメールモードのときは、同時に記録された通常サイズの画像にプリントマークがつきます。
- マルチ連写で撮影した画像は16分割された1枚の画像としてプリントマークがつきます。

シングル画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にする**

2 **◀/▶でプリントしたい画像を表示する**

3 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

4 **◀/▶で［プリント］を選び、中央の●を押す**

表示されている画像に🖨✓（プリント）マークがつきます。

プリントマークを消すには

手順**4**でもう1度中央の●を押します。🖨✓マークが消えます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを1回押してインデックス（9枚表示）画面にする**

2 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［プリント］を選び、中央の●を押す**

4 **◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す**

- ［全画像］を選ぶことはできません。

5 **プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す**

選んだ画像に🖨✓（プリント）マークがつきます。

6 **他の画像もプリントするときは、手順5を繰り返す**

7 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

8 **▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

🖨マークの設定が完了します。

プリントマークを消すには

手順**5**で🖨マークを消したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押します。

すべての画像のプリントマークを消すには

手順**4**で［全画像］を選び、中央の●を押します。次に［切］を選び、中央の●を押します。

プリントマークを中止するには

手順**4**で［キャンセル］を、または、手順**8**で［終了］を選びます。

インデックス（3枚表示）画面のとき

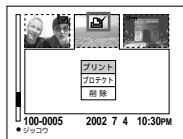
1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを2回押して、インデックス（3枚表示）画面にする**

2 **◀/▶でプリントしたい画像を中央に表示する**

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 **▲/▼で［プリント］を選び、中央の●を押す**

画面中央の画像に🖨（プリント）マークがつきます。

5 **他の画像もプリントするときは、◀/▶でプリントしたい画像を中央に表示し、手順4を繰り返す**

プリントマークを消すには

手順**4**でもう1度中央の●を押します。🖨マークが消えます。

静止画を編集する

動画を撮る

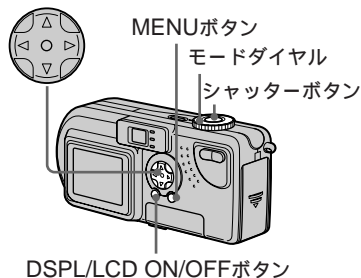
モードダイヤル：[動画アイコン]

動画を撮影できます。

操作の前に

SET UPの［動画選択］を［MPEGムービー］にしておきます（4、57ページ）。

コントロールボタン

1 モードダイヤルを「[動画アイコン]」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［[画像サイズアイコン]］（画像サイズ）、▲/▼で希望のサイズを選ぶ

320（HQX）、320×240、160×112から選べます。
各サイズによる記録時間については、51ページをご覧ください。

4 シャッターボタンを深く押し込む

「録画」と表示され、画像の記録が始まります。

- "メモリースティック"の容量がいっぱいになると停止します。
- 動画の撮影時間は51ページをご覧ください。

5 録画を止めるには、シャッターボタンをもう1度深く押し込む

撮影中の画面上の表示は

画像には記録されません。
DSPL/LCD ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示OFF→液晶画面OFF→画面表示ONの順で変わります。
表示される項目について詳しくは、65ページをご覧ください。

近接（マクロ）撮影する

モードダイヤルを「[動画アイコン]」にしてから、**別冊基本編** ➡ 21ページの手順に従ってください。

セルフタイマーで撮影する

モードダイヤルを「[動画アイコン]」にしてから、**別冊基本編** ➡ 22ページの手順に従ってください。

- フラッシュは使えません。
- 日付・時刻は挿入されません。
- 動画撮影中にはズームは使えません。

液晶画面で動画を見る

モードダイヤル：▶

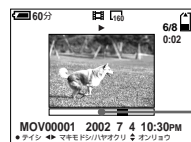
本機の液晶画面で動画を見ることができます。音声も本機のスピーカーから聞こえます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で見たい動画を選ぶ

動画は静止画よりもひとまわり小さく表示されます。

3 中央の●を押す

動画と音声が再生されます。
再生中は▶（再生）が液晶画面に表示されます。

再生を止めるには

中央の●を押します。

音量を調節するには

▲/▼で調節します。

巻き戻し／早送りをするには

再生中に◀/▶を押します。
通常の再生に戻るには、中央の●を押します。

高画質撮影した動画は

画像サイズ［320（HQX）］で撮影した動画は画面いっぱいに表示されます。

動画再生中の画面上の表示は

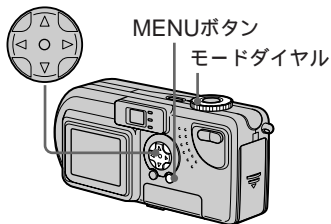
DSPL/LCD ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示OFF→液晶画面OFF→画面表示ONの順で変わります。
表示される項目について詳しくは、67ページをご覧ください。

• 動画をテレビで見る方法は、静止画と同じです（**別冊基本編** ➡ 31ページ）。

動画を削除する

モードダイヤル：▶

不要な動画を削除します。

コントロールボタン

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で削除したい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

この時点ではまだ削除されていません。

5 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」と表示されます。表示が消えると、画像が削除されます。

削除を中止するには

手順5で［キャンセル］を選びます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを1回押してインデックス（9枚表示）画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

5 削除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に🗑マークがつきます。

この時点ではまだ削除されていません。

6 **他の画像も削除するときは、手順5を繰り返す**

7 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

8 **◀/▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

「アクセス中」という表示が消えると、画像が削除されます。

削除を中止するには

手順8で［終了］を選びます。

すべての画像を削除するには

手順4で［全画像］を選び、中央の●を押します。削除を中止するときは、◀/▶で［キャンセル］を選び、中央の●を押します。

インデックス（3枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを2回押してインデックス（3枚表示）画面にする**

2 **◀/▶で削除したい画像を中央に表示する**

3 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

4 **▼で［削除］を選び、中央の●を押す**

この時点ではまだ削除されていません。

5 **▲で［実行］を選び、中央の●を押す**

「アクセス中」という表示が消えると、画面中央の画像が削除されます。

削除を中止するには

手順5で［キャンセル］を選びます。

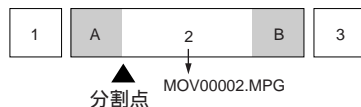
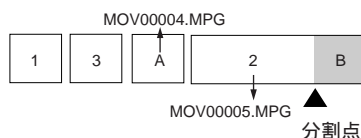
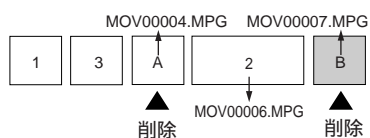
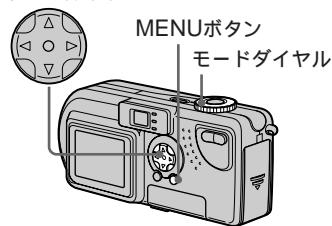
動画を編集する

モードダイヤル：▶

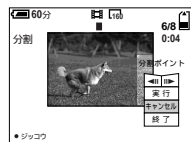
撮影した動画（MPEGムービー）を分割したり、不要な部分を削除することができます。“ メモリースティック ”の容量が足りないときやEメールに添付するときに便利です。

分割したときのファイル番号は右記のようになります

分割したファイルは、最新のファイルとして、それぞれ新しい番号を割り振られます。分割する前の元のファイルは削除され、その番号は欠番になります。

〈例〉MOV00002.MPGファイルを分割した場合

動画を分割する

1. **モードダイヤルを「▶」にする**
2. **◀/▶で分割したい動画を表示する**
3. **MENUボタンを押す**
   メニューが表示されます。
4. **▶で［分割］を選び、中央の●を押し、▲で［実行］を選び、中央の●を押す**
   動画が再生されます。

5 分割する位置を決める

分割したい位置で、中央の●を押します。

分割する位置を微調整したいときは、[◀II/II▶]（コマ送り/コマ戻し）を選び、◀/▶で微調整します。
分割する場所を選びなおしたいときは、[キャンセル] を選びます。動画の再生が再開します。

6 分割する位置を決めたら、▲/▼で[実行] を選び、中央の●を押す

7 ▲で [実行] を選び、中央の●を押す

動画ファイルが分割されます。

分割を中止するには

手順5で [終了] を選びます。再生画面に戻ります。

- 下記のファイルは分割できません。
  - クリップモーションのファイル
  - マルチ連写のファイル
  - 静止画ファイル
  - 分割できる充分な長さのない動画ファイル
  - プロテクトされている動画ファイル
- 一度分割したファイルを元に戻すことはできません。
- 分割すると、元のファイルは削除されます。

1 動画の不要な部分を分割する（前ページ）

2 削除したい部分の動画を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で [削除] を選び、中央の●を押す

5 ▲で [実行] を選び、中央の●を押す

表示されている動画が削除されます。

「ImageMixer」をインストールする

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「PIXELA ImageMixer for Sony（ピクセライメージミキサーフォーソニー）」を使うと、本機で撮影した静止画をお使いのパソコンで手軽に楽しめます。

• パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。

ImageMixerに関するお問い合わせ
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：072-224-0181
受付時間：月〜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.imagemixer.com

Windowsの場合

1 パソコンの電源を入れる

• Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）またはPower user（標準ユーザー権限）でログオンしてください。
• Windows XPをお使いの方は、パソコンの管理者権限でログオンしてください。

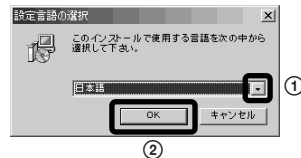
2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

しばらくすると、タイトル画面が表示されます。

タイトル画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイコンピュータ）→（ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

3 タイトル画面の中の「PIXELA ImageMixer」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

「設定言語の選択」画面が表示されます。

4 [▼] をクリックして「日本語」を選び、[OK] をクリックする

「PIXELA ImageMixer用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

5 画面の指示に従って操作する

インストールが終了すると、インストール画面が閉じます。

6 タイトル画面の［DirectX］をクリックする

「Microsoft DirectX8.0のセットアップ」画面が表示されます。

- Windows XPをお使いの方は、手順6～8は不要です。手順9に進んでください。

7 ［はい］をクリックする

「DirectX®セットアップ」画面が表示されます。

8 ［インストール］をクリックする

「DirectX」のインストールが始まります。インストールが終わったら、［OK］をクリックして、パソコンを再起動してください。

9 パソコンからCD-ROMを取り出す

Macintoshの場合

1 パソコンの電源を入れる。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。
しばらくすると、タイトル画面が表示されます。

3 日本語をクリックする。

4 画面の指示に従って操作する。
インストールが終了すると、インストール画面が閉じます。

5 パソコンからCD-ROMを取り出す。

「ImageMixer」で静止画を取り込む

「PIXELA ImageMixer for Sony」を使って、本機からパソコンに画像を取り込みます。

操作の前に

別冊基本編 ➡ 39〜42ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつなぎ、本機を準備してください。

Windowsの場合

ここでは、「マイドキュメント」フォルダーに画像をコピーします。

1 「ImageMixer」を起動する

デスクトップ画面上の（PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony）をダブルクリックします。
「ImageMixer」が起動し、メイン画面が表示されます。

2 をクリックする

画像を取り込むための画面が表示されます。

3 静止画をパソコンに取り込む

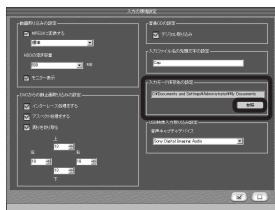
① 画面左上のをクリックする。

② 画面左上のをクリックする。

“ メモリースティック ”内の画像が一覧表示されます。

- “ メモリースティック ”内の静止画／動画すべてが表示されます。

③ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

④「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、表示される「フォルダの参照」画面で［マイドキュメント］をクリックして、［OK］をクリックする。

⑤ （☑）をクリックする。

⑥ 画面右上のをクリックする。

⑦ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上のをクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

- 画像をにドラッグ＆ドロップすることもできます。

Macintoshの場合

1 「ImageMixer」を起動する。

2 をクリックする。

3 静止画をパソコンに取り込む

① 画面左上のをクリックする。

② 画面左上のをダブルクリックする。
“ メモリースティック ”内の画像が一覧表示されます。

③ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

④「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、画像の保存先を選び、［選択］をクリックする。

⑤ （☑）をクリックする。

⑥ 画面右上のをクリックする。

⑦ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上のをクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

- 画像をにドラッグ＆ドロップすることもできます。

「ImageMixer」の使いかたについて詳しくは、ハードディスク→PIXELA ImageMixer→manual→index.html の順にダブルクリックして、ヘルプをご覧ください。

「ImageMixer」で静止画を見る

30ページでパソコンに取り込んだ静止画を「PIXELA ImageMixer for Sony」を使って見ます。

Windowsの場合

1 **をクリックする**

静止画を見るための画面が表示されます。

2 **表示したい静止画をダブルクリックする**

選んだ静止画が表示されます。

前の画面に戻るには

画面右上の をクリックします。

- 「ImageMixer」を使うと、取り込んだ静止画を編集することもできます。詳しくは、画面右上の ? をクリックして、ヘルプをご覧ください。

Macintoshの場合

1 をクリックする。

2 表示したい静止画をダブルクリックする。
選んだ静止画が表示されます。

前の画面に戻るには

画面右上の をクリックします。

「ImageMixer」で静止画を印刷する

「PIXELA ImageMixer for Sony」で開いた静止画をプリンタで印刷します。あらかじめプリンタとパソコンを接続し、両方の機器の電源を入れておきます。
プリンタの接続や設定などについて詳しくは、プリンタに付属の取扱説明書をご覧ください。

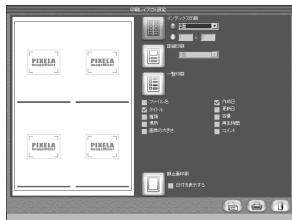
Windowsの場合

1 静止画を表示する
32ページの手順1の操作を行ってください。

2 印刷したい静止画をクリックする

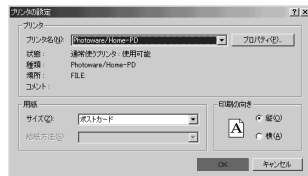
3 をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする
「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。

4 レイアウトを設定する

お好みに応じて設定してください。

通常は画面下の をクリックします。

5 用紙の設定をする

① をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。

② 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、［OK］をクリックする。

6 印刷する

① をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。

② ［OK］をクリックする。

静止画が印刷されます。

印刷できないときは

プリンタの接続や設定が正しいかどうか確認してください。詳しくは、お使いのプリンタに付属の取扱説明書をご覧ください。

Macintoshの場合

1 静止画を表示する。

2 印刷したい静止画をクリックする。

3 をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする。
「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。

4 レイアウトを設定する。
通常は画面下の をクリックします。

5 をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。

6 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、［OK］をクリックする。

7 をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。

8［プリント］をクリックする。
静止画が印刷されます。

動画をパソコンに取り込む

下記の手順で、動画をパソコンに取り込みます。

操作の前に

別冊基本編 ➡ 39～42ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつなぎ、本機を準備してください。

「ImageMixer」で動画を取り込むには

付属の「PIXELA ImageMixer for Sony」を使って本機からパソコンに動画を取り込むこともできます。取り込みかたは、静止画の場合と同じです（30ページ）。

Windows 98/98SE/2000/Meの場合

1 デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）をダブルクリックする

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。

- ここでは、「マイドキュメント」というフォルダーに画像をコピーします。

2 （リムーバブルディスク）をダブルクリックする

本機内の“メモリースティック”の内容が表示されます。

3 （MSSONY）をダブルクリックする

「MSSONY」フォルダーの内容が表示されます。

4 （MOML0001）をダブルクリックする

「MOML0001」フォルダーの内容が表示されます。

5 画像ファイルを「マイドキュメント」フォルダーにドラッグ＆ドロップする

「マイドキュメント」フォルダーに画像ファイルがコピーされます。

Windows XPの場合

詳しくは、**別冊基本編** ➡ 46、47ページをご覧ください。

1 コピーウィザード画面で［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用］をクリックし、［OK］をクリックする

「スキャナとカメラのウィザードの開始」画面が表示されます。

2 ［次へ］をクリックする

本機の“メモリースティック”に記録されている画像が表示されます。

3 パソコンにコピーしない画像の☑をクリックして☐にし、［次へ］をクリックする

「画像の名前とコピー先」画面が表示されます。

4 画像の名前とコピー先を指定し、［次へ］をクリックする

画像のコピーが始まります。コピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示されます。

- 画像のコピー先は、「マイドキュメント」にしてください。

5 ［作業を終了する］を選び、［次へ］をクリックする

「スキャナとカメラのウィザードの完了」画面が表示されます。

6 ［完了］をクリックする

ウィザード画面が閉じます。

- 続けて画像をコピーしたい場合は、USBケーブルを一度抜き差しして、手順1から行ってください。

Macintoshの場合

1 デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコンをダブルクリックする。

本機内の“ メモリースティック ”の内容が表示されます。

2 ［MSSONY］をダブルクリックする。

3 ［MOML0001］をダブルクリックする。

4 画像ファイルをハードディスクにドラッグ＆ドロップする。

ハードディスクに画像ファイルがコピーされます。

「ImageMixer」で動画を見る

「PIXELA ImageMixer for Sony」でパソコンに取り込んだ動画を再生します。

ImageMixer**に関するお問い合わせ**
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：072-224-0181
受付時間：月〜日　午前9**時〜午後**5**時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.imagemixer.com

Windowsの場合

1 ◎ をクリックする

動画を見るための画面が表示されます。

2 動画を再生する

① 再生したい動画をダブルクリックする。

② ▶（再生）をクリックする。

選んだ動画が再生されます。

再生を止めるには

⏸ をクリックします。

前の画面に戻るには

画面右上の ◫ をクリックします。

- 「ImageMixer」を使うと、動画アルバムを作ったり、動画を編集することもできます。詳しくは、画面右上の?をクリックして、ヘルプをご覧ください。

Macintoshの場合

1 ◎ をクリックする。

2 再生したい動画をダブルクリックする。

3 ▶ をクリックする。
選んだ動画が再生されます。

再生を止めるには

⏸ をクリックします。

前の画面に戻るには

画面右上の ◫ をクリックします。

「プレイステーション 2」に静止画を取り込む

本機と「プレイステーション 2」をUSBケーブルで接続すると、本機で撮影したJPEG画像を「プレイステーション 2」に取り込むことができます。
ドライバーなどのインストールは不要です。ピクチャーパラダイスに対応したソフトウェアのディスクを「プレイステーション 2」に入れれば、すぐに楽しめます。

- ピクチャーパラダイスに対応した市販の「プレイステーション 2」専用ソフトウェアが必要です。
- ピクチャーパラダイスとは、ソニー株式会社の提唱する対応機器と「プレイステーション 2」を接続し、対応ソフトウェアを使い、画像データなどを取り扱うことのできる規格の名称です。

PictureParadise

「プレイステーション 2」に接続する前に

本機と「プレイステーション 2」の電源が切れていることを確認してください。

1 **付属のUSBケーブルで本機と「プレイステーション 2」をつなぐ**

2 **取り込みたい画像が入った“メモリースティック”を本機に入れ、ソフトウェアのディスクを「プレイステーション 2」に入れる**

3 **本機と「プレイステーション 2」の電源を入れる**

4 **ソフトウェアの画面の指示に従って、本機から画像を取り込む**

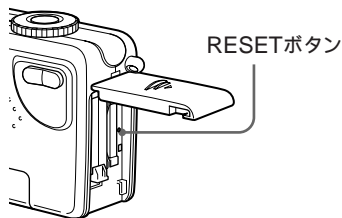
楽しみかたはソフトウェアによって異なります。詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

1 39〜47ページの項目をチェックし、本機を点検する

液晶画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。50ページをご覧ください。

2 バッテリー／"メモリースティック"カバーの内側にあるRESETボタン（**別冊基本編** ➡ 7ページ）を押してから、電源を入れる
（この操作を行うと、日時などの設定は解除されます）

3 デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページを確認する（裏表紙）

4 テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる（裏表紙）

バッテリー・電源

症状	原因	処置
バッテリーが充電できない。	• 本機の電源が入っている。	→ 本機の電源を切る（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。
本機にバッテリーを入れられない。	• 正しく入れていない。	→ バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみを下側に押しながら入れる（**別冊基本編** ➡ 8ページ）。
⚡/CHGランプが点滅する。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • バッテリーが故障している。	→ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 8ページ）。 → テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー・電源（つづき）

症状	原因	処置
バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点灯していない。	• ACパワーアダプターがはずれている。 • バッテリーが正しく取り付けられていない。 • 充電が完了している。	→ きちんと接続し直す（**別冊基本編** → 8ページ）。 → バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。 —
バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	• 温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 • バッテリーそのものの寿命（61ページ）。 • バッテリーが消耗している。 • 残量表示機能と実際の残量にズレが生じた。	— → 新しいバッテリーと交換する。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。 → 満充電すると、残量表示機能が正しくなる（**別冊基本編** → 9ページ）。
バッテリーの消耗が早い。	• 温度が極端に低いところで撮影/再生している。 • 充電が不充分。 • バッテリーそのものの寿命（61ページ）。	— → 満充電する（**別冊基本編** → 8ページ）。 → 新しいバッテリーと交換する。
電源が入らない。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • ACパワーアダプターがはずれている。	→ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。 → きちんと接続し直してください（**別冊基本編** → 12ページ）。
電源が途中で切れる。	• 操作しない状態が90秒以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる。（パワーセーブ［切］時は約3分）（**別冊基本編** → 13ページ） • バッテリーが消耗している。	→ 電源を入れ直す（**別冊基本編** → 13ページ）。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。

静止画／動画を撮る

症状	原因	処置
電源を入れても液晶画面がつかない。	• 前回使用時、液晶画面をOFFにして電源を切った。	→ 液晶画面をONにする（**別冊基本編** → 25ページ）。
液晶画面に被写体が写らない。	• モードダイヤルが「」または「SCN」、「」になっていない。	→ モードダイヤルを「」または「SCN」、「」にする（**別冊基本編** → 19、27ページ、本書22ページ）。
フォーカスが合わない。	• 被写体が近すぎる。 • 静止画撮影時、シーンセレクションが風景モードになっている。 • フォーカスプリセットになっている。	→ 50 cm以内で撮影するときは、マクロ撮影モードにする。マクロ撮影モードをお使いの場合でも、最短撮影距離よりもカメラを離して撮影してください（**別冊基本編** → 21ページ）。 → 解除する（**別冊基本編** → 27ページ）。 → オートフォーカスに戻す（7ページ）。
ズームできない。	• 動画（MPEGムービー）撮影中はできない。	—
デジタルズームができない。	• 動画（MPEGムービー）撮影中はできない。 • SET UPの［デジタルズーム］が［切］になっている。 • 液晶画面がOFFになっている。	— →［入］にする（4、57ページ）。 → 液晶画面をONにする（**別冊基本編** → 25ページ）。
画像が暗い。	• 逆光になっている。 • 液晶画面が暗い。 • パワーセーブ［入］になっている。	→ 露出を補正する（7ページ）。 → SET UPの［LCD明るさ］で調節する（4、58ページ）。 → パワーセーブ［切］にする（4、58ページ)。
画像が明るい。	• 舞台撮影など、暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影している。 • 液晶画面が明るい。	→ 露出を補正する（7ページ）。 → SET UPの［LCD明るさ］で調節する（4、58ページ）。
画像が白黒になる。	• ピクチャーエフェクトがモノトーンモードになっている。	→ 解除する（13ページ）。

静止画／動画を撮る（つづき）

症状	原因	処置
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。	• スミアという現象。	➔ 故障ではない。
撮影できない。	• “ メモリースティック ”が入っていない。 • “ メモリースティック ”の容量がない。 • “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 • フラッシュ充電中は撮影できない。 • 静止画撮影時、モードダイヤルが「📷」または「SCN」になっていない。 • 動画撮影時、モードダイヤルが「🎞」になっていない。	➔“ メモリースティック ”を入れる（**別冊基本編** ➡16ページ）。 ➔“ メモリースティック ”内の画像を削除するかまたはフォーマットをする。 ➔“ メモリースティック ”を交換する。 ➔ 解除する（60ページ）。 — ➔ モードダイヤルを「📷」または「SCN」にする（**別冊基本編** ➡ 19、27ページ）。 ➔ モードダイヤルを「🎞」にする（22ページ）。
フラッシュ撮影ができない。	• モードダイヤルが「▶」、「SET UP」、「🎞」になっている。 • 設定が⚡（発光禁止）になっている。 • 静止画撮影時、シーンセレクションが夜景モードになっている。	➔ モードダイヤルを「▶」、「SET UP」、「🎞」以外にする（**別冊基本編** ➡ 23ページ）。 ➔ オート（表示なし）または⚡（強制発光）にする（**別冊基本編** ➡ 23ページ）。 ➔ 解除する（**別冊基本編** ➡ 27ページ）。
被写体の目が赤く写る。	—	➔ 赤目軽減モードにする（**別冊基本編** ➡ 24ページ）。
正しい撮影日時が記録されない。	• 日付・時刻が合っていない。	➔ 日付・時刻を合わせる（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。

画像を見る

症状	原因	処置
再生できない。	• モードダイヤルが「▶」になっていない。 • パソコンのハードディスクにコピーしたファイルで名前を変更したり、画像を加工したものは本機で再生できない。	→ モードダイヤルを「▶」にする（**別冊基本編** ➡ 29ページ）。 —
表示直後に再生画像が粗い。	—	→ 故障ではない。
テレビに画像が出ない。	• SET UPの［ビデオ出力信号］が［PAL］になっている。 • 接続が正しくない。	→ ［NTSC］にする（4、58ページ）。 → 接続を確認する（**別冊基本編** ➡ 31ページ）。
パソコンで再生できない。	—	→ 45ページをご覧ください。
動画再生中、ピロピロという音がする。	• 動画撮影中にオートフォーカスが働いている音。	→ 故障ではない。フォーカスプリセットにする（7ページ）。

画像を削除する／編集する

症状	原因	処置
削除できない。	• 画像がプロテクトされている。 • “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 画像のプロテクトを解除する（18ページ）。 → 誤消去防止スイッチを解除する（60ページ）。
誤って消してしまった。	• 一度削除したファイルは元に戻せない。	→ 画像にプロテクトをかけると、誤消去を防げます（17ページ）。
リサイズができない。	• 動画（MPEGムービー）／クリップモーション画像／マルチ連写で撮影した画像はリサイズできない。	—
プリントマークがつかない。	• 動画（MPEGムービー）／クリップモーション画像にはプリントマークをつけられない。	—

パソコン

症状	原因	処置
対応しているOSが分からない。	—	→「パソコンの推奨使用環境」を確認する（**別冊基本編** → 38ページ）。
USBドライバーをインストールできない。	—	→ Windows 2000を使用している場合は、Administrator（管理者権限）でログオンする（**別冊基本編** → 39ページ）。
本機がパソコンに認識されない。	• 本機の電源が入っていない。	→ 本機の電源を入れる（**別冊基本編** → 13ページ）。
	• バッテリー残量が少ない。	→ ACパワーアダプターを使用する（**別冊基本編** → 12ページ）。
	• 付属のUSBケーブルを使っていない。	→ 付属のUSBケーブルを使う（**別冊基本編** → 42ページ）。
	• USBケーブルがしっかり差し込まれていない。	→ 一度パソコンと本機からケーブルを抜いて、しっかりと差し込み、「USBモード」になっていることを確認する（**別冊基本編** → 42ページ）。
	• SET UPの［USB接続］が［PTP］になっている。	→［標準］にする（4、58ページ）。
	• パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	→ キーボード／マウス以外は取りはずす。
	• USBドライバーがインストールされていない。	→ USBドライバーをインストールする（**別冊基本編** → 39ページ）。
	• 付属のCD-ROMから「USBドライバー」をインストールする前に、USBケーブルで本機とパソコンを接続したため、デバイスが正しく認識されていない。	→ 正しく認識されなかったデバイスを削除してから、USBドライバーをインストールする（**別冊基本編** → 39、45ページ）。
画像をコピーできない。	• 本機とパソコンの接続が正しくない。	→ 本機とパソコンを正しくUSB接続する（上記の参照ページ）。
	• お使いのOSによって手順が違う。	→ お使いのOSに対応した手順でコピーする（**別冊基本編** → 43、46、51ページ）。
	—	→「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、30ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。

症状	原因	処置
画像を再生できない。	— —	➔「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、32、36ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。 ➔ パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
動画を再生すると画像や音が途切れる。	• “ メモリースティック ”から直接再生している。	➔ パソコンのハードディスクに動画をコピーして、ハードディスクのファイルを再生する（35ページ）。
画像を印刷できない。	—	➔ お使いのプリンターの設定を確認してください。 ➔ 33ページをご覧になるか、「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

“ メモリースティック ”

症状	原因	処置
本機に入らない。	• “ メモリースティック ”を入れる向きが違っている。	➔ 正しい向きにして入れる（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
記録できない。	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 • “ メモリースティック ”の容量がいっぱいになっている。	➔ 誤消去防止を解除する（60ページ）。 ➔ 不要な画像を削除する（**別冊基本編** ➡ 32ページ、本書24ページ）。
フォーマットできない。	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	➔ 誤消去防止を解除する（60ページ）。
誤ってフォーマットしてしまった。	• フォーマットすると、“ メモリースティック ”内の画像はすべて消去され、元に戻せない。	➔“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤フォーマットを防げます（60ページ）。

その他

症状	原因	処置
操作を受け付けない。	• “インフォリチウム”バッテリーを使っていない。 • バッテリーが残り少ない（表示が出る）。 • ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。 • 内部システムの誤動作。	→ バッテリーは必ず“インフォリチウム”バッテリーを使う（60ページ）。 → 充電する（**別冊基本編** ➡ 8ページ）。 → DC IN端子とコンセントにしっかり差し込む（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。 → 電源を切り、1分後に電源を入れて、正しく動作するか確認する。
電源が入っているのに操作できない。	• 内部システムの誤動作。	→ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。これでも操作できないときは、バッテリー／“メモリースティック”カバー内側のRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる。（この操作をすると日時などの設定が解除される。）
液晶画面上の表示が分からない。	—	→ 表示の種類を確認する（64～67ページ）。
電源を切ってもレンズが収納されない。	• バッテリーが消耗している。	→ 満充電されたバッテリーを取り付けるか、ACパワーアダプターを使用する（**別冊基本編** ➡ 8、12ページ）。
レンズがくもる。	• 結露している。	→ 約1時間そのままにしてから使用する（59ページ）。
長時間使用すると、本機が熱くなる。	—	→ 故障ではない。

警告表示について

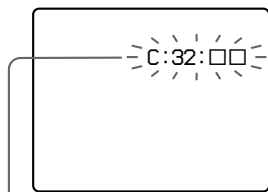
液晶画面には次のような表示が出ることがあります。

表示	意味／処置
メモリースティックがありません	•"メモリースティック"を入れてください（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
システムエラー	• 電源を入れ直してください（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。
メモリースティックエラー	• 本機では使えない"メモリースティック"が入っている（60ページ）。 •"メモリースティック"が壊れている。"メモリースティック"の端子部が汚れている。 •"メモリースティック"を正しく入れてください（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
フォーマットエラー	•"メモリースティック"が正しくフォーマットされていない。フォーマットし直してください（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。
メモリースティックがロックされています	•"メモリースティック"の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。解除してください（60ページ）。
メモリースティックの残量がありません	•"メモリースティック"の空き容量が足りないので、記録ができない。不要な画像を削除してください（**別冊基本編** ➡ 32ページ、本書24ページ）。
ファイルがありません	• 画像が記録されていない。
ファイルエラー	• 画像再生時の異常。
ファイルがプロテクトされています	• 画像にプロテクトがかけられている。
"インフォリチウム"バッテリーを使ってください	•"インフォリチウム"対応以外のバッテリーを使っている。
フォルダーエラー	•"メモリースティック"内に同じフォルダーが存在する。

表示	意味／処置
画像サイズオーバーです	• 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。
無効な操作です	• 本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
(バッテリー残量表示)	• バッテリーの残量が少ない。バッテリーを充電してください（**別冊基本編** ➡ 8ページ）。ご使用状況やバッテリーパックの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。
分割できません	• 分割できる充分な長さがない。 • 動画（MPEGムービー）ではない。
(手ぶれ警告表示)	• 手ぶれが起こりやすい状況になっている。フラッシュを使うか、三脚などでカメラをしっかりと固定してください。
電源を入れ直してください	• レンズの誤動作。

自己診断表示

ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。これは本機に異常が起きたときに液晶画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。
詳しくは右の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ハードウェア、もしくはズーム機能の異常。	• 電源を入れ直す（**別冊基本編 ➡** 13ページ）。
C:13:□□	データが読めない／書けない。	• “ メモリースティック ”を数回抜き差しする。
	フォーマットしていない“ メモリースティック ”を入れた。	• フォーマットする（**別冊基本編 ➡** 35ページ）。
	本機では使えない“ メモリースティック ”を入れた。 データが壊れている。	• “ メモリースティック ”を交換する（**別冊基本編 ➡** 16ページ）。
E:61:□□ E:91:□□	何らかの異常が起きている。	• バッテリー／“ メモリースティック ”カバー内側のRESETボタン（**別冊基本編 ➡** 7ページ）を押してから、電源を入れる。

「対応のしかた」を2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際、表示の5桁のすべてをお知らせください。
例:E:61:10

記録枚数／時間について

“ メモリースティック ”の容量、画像サイズ、画質によって記録できる撮影枚数、撮影時間が異なります。
下表を参考に用途に応じて“ メモリースティック ”をお選びください。

- 撮影枚数はファイン（スタンダード）の順で記載しています。
- 記録枚数／時間は撮影状況によっては数値と異なる場合があります。
- 通常撮影時の記録枚数については**別冊基本編** ➡ 18ページをご覧ください。

Eメール

（単位：枚）

	8M	16M	32M	64M	128M
1600×1200	8 (14)	16 (28)	32 (59)	64 (118)	128 (236)
1600 (3:2)	8 (14)	16 (28)	32 (59)	64 (118)	128 (236)
1280×960	12 (21)	24 (42)	48 (88)	96 (176)	192 (352)
640×480	43 (95)	87 (192)	177 (390)	357 (786)	714 (1572)

ボイスメモ

（単位：枚）

	8M	16M	32M	64M	128M
1600×1200	7 (13)	14 (26)	31 (54)	62 (108)	124 (216)
1600 (3:2)	7 (13)	14 (26)	31 (54)	62 (108)	124 (216)
1280×960	11 (19)	22 (38)	45 (78)	90 (156)	180 (312)
640×480	34 (56)	68 (120)	139 (244)	280 (491)	560 (982)

クリップモーション

（単位：枚）

	8M	16M	32M	64M	128M
ノーマル	40	80	160	320	640
モバイル	300	450	900	1800	3600

ノーマル：10コマで撮影した場合
モバイル：2コマで撮影した場合

MPEGムービー

（単位：秒）

	8M	16M	32M	64M	128M
320 (HQX)	20	40	85	170	340
320×240	80	160	340	680	1360
160×112	320	640	1300	2700	5400

マルチ連写

（単位：枚）

	8M	16M	32M	64M	128M
1280×960	12 (23)	24 (44)	50 (93)	100 (186)	202 (375)

メニュー項目について

モードダイヤルの位置によって操作できる項目は変わります。画面には、設定可能な項目のみが表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

モードダイヤルが「📷」、「SCN」のとき

項目	設定	意味
SCN	■🌙／👤🌙／🏔	シーンセレクションを設定する。（「📷」モードのときは設定できません）（**別冊基本編** ➡ 27ページ）。
☑（EV）	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／－0.3EV／－0.7EV／－1.0EV／－1.3EV／－1.7EV／－2.0EV	露出を補正する（7ページ）。
F（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（5ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（7ページ）。
WB **（ホワイトバランス）**	💡／蛍光灯／☁／☀／■オート	ホワイトバランスを設定する（9ページ）。
⊙（スポット測光）	入／■切	撮りたい被写体に露出を合わせる（8ページ）。
ISO	400／200／100／■オート	ISO感度を選ぶ。暗い場所や高速で移動する被写体の撮影には大きい数字を、高画質を得るには小さい数字を選ぶ。（「SCN」モードのときは設定できません）
（画像サイズ）	■1600×1200／1600（3:2）／1280×960／640×480	静止画撮影時の画像サイズを選ぶ（**別冊基本編** ➡ 17ページ）。
（画質）	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する／標準の画質で記録する（**別冊基本編** ➡ 17ページ）。

項目	設定	意味
MODE（撮影モード）	ボイスメモ Eメール ■通常撮影	– JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（13ページ）。 – 設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（12ページ）。 – 通常の撮影をする。
±（フラッシュレベル）	明 ■標準 暗	– フラッシュの発光量を通常より多くする。 – 通常の設定。 – フラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／モノトーン／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（13ページ）。
（シャープネス）	＋2／＋1／■0／– 1／– 2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

モードダイヤルが「」のとき（SET UPの［動画選択］が［MPEGムービー］のとき）

項目	設定	意味
(EV)	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／－0.3EV／－0.7EV／－1.0EV／－1.3EV／－1.7EV／－2.0EV	露出を補正する（7ページ）。
（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（5ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（7ページ）。
WB（ホワイトバランス）	／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（9ページ）。

モードダイヤルが「🎞」のとき（SET UPの［動画選択］が［MPEGムービー］のとき）（つづき）

項目	設定	意味
◉（スポット測光）	入／■切	撮りたい被写体に露出を合わせる（8ページ）。
▦（画像サイズ）	320(HQX)／320×240／■160×112	動画撮影時にMPEG画像のサイズを選ぶ（22ページ）。
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／モノトーン／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（13ページ）。

モードダイヤルが「🎞」のとき（SET UPの［動画選択］が［クリップモーション］のとき）

項目	設定	意味
☑(EV)	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／－0.3EV／－0.7EV／－1.0EV／－1.3EV／－1.7EV／－2.0EV	露出を補正する（7ページ）。
☞（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（5ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（7ページ）。
WB（ホワイトバランス）	☼／☲／☁／☀／■オート	ホワイトバランスを設定する（9ページ）。
◉（スポット測光）	入／■切	撮りたい被写体に露出を合わせる（8ページ）。
▦（画像サイズ）	■ノーマル／モバイル	クリップモーションの画像のサイズを選ぶ（10ページ）。
⚡±（フラッシュレベル）	明 ■標準 暗	– フラッシュの発光量を通常より多くする。 – 通常の設定。 – フラッシュの発光量を通常より少なくする。

項目	設定	意味
PFX（P.**エフェクト**）	ソラリ／モノトーン／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（13ページ）。
（シャープネス）	＋2／＋1／■0／– 1／– 2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

モードダイヤルが「」のとき（SET UPの［動画選択］が［マルチ連写］のとき）

項目	設定	意味
(EV)	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／－0.3EV／－0.7EV／－1.0EV／－1.3EV／－1.7EV／－2.0EV	露出を補正する（7ページ）。
（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（5ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（7ページ）。
WB（**ホワイトバランス**）	／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（9ページ）。
（スポット測光）	入／■切	撮りたい被写体に露出を合わせる（8ページ）。
（インターバル）	1/7.5／1/15／■1/30（NTSC） 1/6.3／1/12.5／■1/25（PAL）	– NTSCモードでマルチ連写のシャッター間隔を設定する。 – PALモードでマルチ連写のシャッター間隔を設定する。 ＊ SET UPの［ビデオ出力信号］の設定によって、選択できるシャッター間隔が変わります（58ページ）。
（画質）	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する／標準の画質で記録する（**別冊基本編** ➞ 17ページ）。
PFX（P.**エフェクト**）	ソラリ／モノトーン／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（13ページ）。

その他

モードダイヤルが「🎞」のとき（SET UPの［動画選択］が［マルチ連写］のとき）（つづき）

項目	設定	意味
◫（シャープネス）	＋2／＋1／■0／– 1／– 2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面に◫が出る。

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
削除	実行 キャンセル	– 表示中の画像の削除を実行する（**別冊基本編** ➡ 32ページ、本書24ページ）。 – 削除を中止する。
プロテクト	—	画像に誤消去防止指定をする（17ページ）。
プリント	—	プリントしたい静止画像を選ぶ（20ページ）。
スライドショー	間隔設定 繰り返し スタート キャンセル	– スライドショーの間隔を設定する。（シングル画面のときのみ） ■3秒／5秒／10秒／30秒／1分 – スライドショーを繰り返し再生する。 ■入／切 – スライドショーを実行する。 – スライドショーの設定および実行を中止する。
リサイズ	1600×1200／1280×960／640×480／キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（19ページ）。 （シングル画面のときのみ）
回転	↶／↷／実行／キャンセル	静止画像を↷右回りまたは、↶左回りに回転する（16ページ）。 （シングル画面のときのみ）
分割	実行／キャンセル	動画（MPEGムービー）を分割する（26ページ）。（シングル画面のときのみ）

SET UP項目について

モードダイヤルを「SET UP」にすると、SET UP画面が表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

• 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写では、日付・時刻は挿入されません。また、撮影時は日付や時刻は表示されません。再生時に表示されます。

（カメラ）

項目	設定	意味
動画選択	■MPEGムービー／クリップモーション／マルチ連写	動画の撮影モードを選ぶ（4、10、11、22ページ）。
日付/時刻	日時分／年月日／■切	画像に日付や時刻を挿入するかどうかを設定する（**別冊基本編** ➡ 26ページ）。
デジタルズーム	■入／切	デジタルズームを使うかどうかを選ぶ（**別冊基本編** ➡ 21ページ）。
赤目軽減	入／■切	フラッシュ撮影時、被写体の目が赤く写るのを抑制する（**別冊基本編** ➡ 24ページ）。
AF**イルミネーター**	■オート／切	暗いところで撮影するとき、AF補助光を発光させるかどうかを選ぶ。フォーカスを合わせやすいようにするための機能です（**別冊基本編** ➡ 24ページ）。

（設定1）

項目	項目	意味
フォーマット	実行／キャンセル	“メモリースティック”をフォーマット（初期化）する。フォーマットすると、プロテクトしてある画像もふくめて、“メモリースティック”に記録されているすべての情報が消去されます。ご注意ください（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。
ファイルナンバー	■連番 リセット	–“メモリースティック”を取り換えても、ファイル番号を連続してつける。 –“メモリースティック”ごとにファイル番号を0001からつける。

（設定1）（つづき）

項目	設定	意味
言語/LANGUAGE	ENGLISH ■日本語／JPN	– メニュー項目・警告表示などを英語で表示する。 – メニュー項目・警告表示などを日本語で表示する。
時計設定	実行／キャンセル	時計を合わせる（**別冊基本編** → 14ページ）。

（設定2）

項目	設定	意味
LCD**明るさ**	明／■標準／暗	液晶画面の明るさを選ぶ。記録される画像に影響はない。
LCD**バックライト**	明／■標準	液晶バックライトの明るさを選ぶ。屋外など明るい場所で使うときに［明］を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。バッテリー使用時のみ表示される項目。ただし［パワーセーブ］が［入］のときは設定できない。
お知らせブザー	シャッター ■入 切	– シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 – コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 – 音は鳴らない。
ビデオ出力信号	■NTSC PAL	– ビデオ出力信号をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 – ビデオ出力信号をPALモードに設定する（欧州など）。
USB**接続**	PTP／■標準	USB接続方法を選ぶ（**別冊基本編** → 38ページ）。
パワーセーブ	■入／切	パワーセーブを使うかどうかを選ぶ（**別冊基本編** → 11ページ）。バッテリー使用時のみ表示される項目。

使用上のご注意

お手入れについて

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

レンズに指紋やゴミがついて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

DCプラグをきれいにする

ACパワーアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。汚れたままご使用になると、正しく充電されないことがあります。

表面のお手入れについて

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0°C〜40°Cです。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

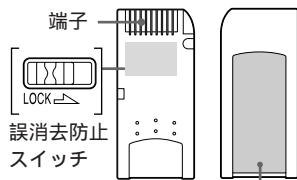
充電方法

本機をACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切ったまま24時間以上放置する。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”は、小さく軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。
“メモリースティック”には、一般の“メモリースティック”と著作権保護技術（マジックゲート*）を搭載した“マジックゲート メモリースティック”の2種類があります。
本機では“マジックゲート メモリースティック”と一般の“メモリースティック”のどちらもご使用いただけます。ただし、本機はマジックゲート規格に対応していないため、本機で記録したデータは著作権の保護の対象にはなりません。

* “マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や画像消去ができません。

誤消去防止スイッチの位置や形状は、お使いの“メモリースティック”によって異なることがあります。
- データの読み込み中、書き込み中には“メモリースティック”を取り出さないでください。
- 静電気やノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが破壊されることがあります。
- ラベル貼り付け部に貼るラベルは専用のラベルをお使いください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水に濡らさないでください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

InfoLITHIUM™ C TYPE

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“インフォリチウム”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

- 周囲の温度が10～30°Cの環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- 満充電することをおすすめします。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前、本機に取りつけることをおすすめします。
- 液晶画面の使用やフラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、「スライドショー」再生（15ページ）にして、電源が切れるまでそのままにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

主な仕様

本体

システム

撮像素子 6.64 mm（1/2.7型）カラーCCD
原色フィルター

総画素数 約2 110 000画素

レンズ 3倍ズームレンズ
f=6.0～18.0 mm（35 mmカメラ換算では39～117 mm）、F2.8～5.6

カメラ

カメラ有効画素数
約1 980 000画素

露出制御 自動、
シーンセレクション（3モード）

ホワイトバランス
オート、太陽光、曇天、蛍光灯、電球

記録方式 静止画：DCF準拠
（Exif Ver. 2.2　JPEG準拠、GIF　クリップモーション時）、
DPOF対応
動画：MPEG1準拠（モノラル）
音声付静止画：MPEG1準拠（モノラル）

記録メディア
“ メモリースティック ”

フラッシュ 推奨撮影距離（ISO感度がオートのとき）
0.5～3.8 m（W）/
0.5～2.4 m（T）

出力端子

A/V OUT端子（モノラル）
ミニジャック
映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
音声：327 mV（47 kΩ負荷時）
出力インピーダンス2.2 kΩ

USB端子 mini-B

液晶画面

液晶パネル 3.8 cm（1.5型）TFT駆動

総ドット数 123 200（560×220）ドット

電源・その他

使用バッテリー
NP-FC10

電源電圧バッテリー端子入力
3.6 V

消費電力（撮影時）
1.7 W

動作温度 0°～+40°C

保存温度 –20°～+60°C

外形寸法 114×51.5×35.6 mm
（幅×高さ×奥行き、最大突起部含まず）

本体質量 206 g（バッテリーNP-FC10、“ メモリースティック ”、リストストラップなど含む）

マイクロホン
エレクトレットコンデンサマイクロホン

スピーカー ダイナミックスピーカー

ACパワーアダプター AC-LS1A

電源 AC 100～240 V、50/60 Hz

定格出力 DC 4.2 V、1.5 A

動作温度 0°～＋40°C

保存温度 －20°C～＋60°C

外形寸法 105×36×56 mm
（幅×高さ×奥行き）（最大突起部のぞく）

本体質量 約180 g（本体のみ）

バッテリーNP-FC10

使用電池 リチウムイオン蓄電池

最大電圧 DC4.2 V

公称電圧 DC3.6 V

容量 2.4 Wh（675 mAh）

保証書とアフターサービス

付属品

- A/V接続ケーブル
- バッテリーパックNP-FC10
- ACパワーアダプターAC-LS1A
- 電源コード
- USBケーブル
- リストストラップ
- “ メモリースティック ”（16 MB）
- CD-ROM（USBドライバーSPVD-008）
- サイバーショット基本編
- サイバーショット応用編／困ったときは
- 安全のために
- 保証書

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラや“ メモリースティック ”などの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“ 故障かな？と思ったら ”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

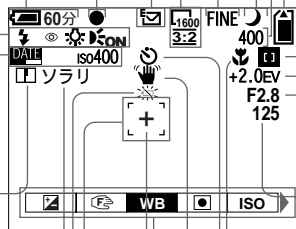
部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

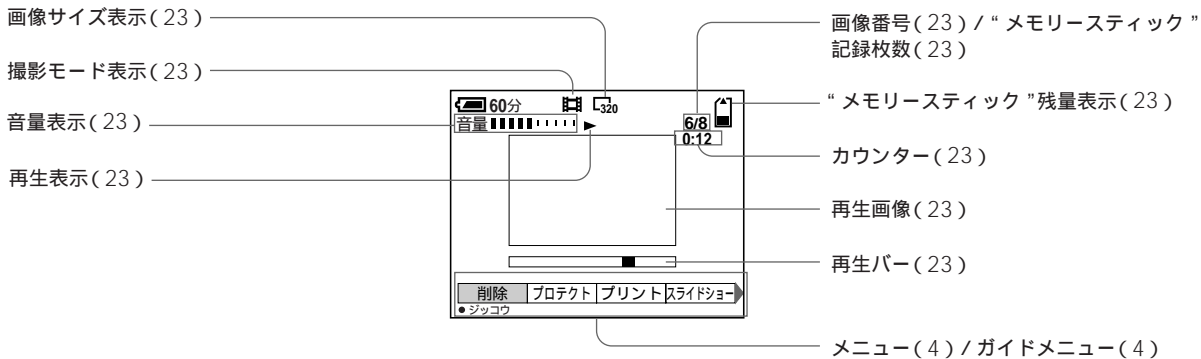
当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

画面上の表示

静止画撮影時

動画撮影時

• メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡**ページ番号」のようにご案内しています。

静止画再生時

撮影モード表示（12、13）
"メモリースティック"記録枚数（別冊基本編 ➡ 18）
"メモリースティック"残量表示（別冊基本編 ➡ 18）
音量表示（13）／
プロテクト表示（17）／
プリントマーク表示（20）
画像番号（別冊基本編 ➡ 18）
画像サイズ表示（別冊基本編 ➡ 17、18）
ズーム表示（14）
ファイル名（別冊基本編 ➡ 49）
画像の記録日時表示（別冊基本編 ➡ 14）／
メニュー（4）／ガイドメニュー（4）
60分
640
11/12
x1.3
100-0019
2002 7 4 9:30AM
◀▶モドル/ツギヘ
⬍オンリョウ

動画再生時

• メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

用語の解説

インストール（別冊基本編 ➡ 39ページ）
ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込むことです。

“インフォリチウム”バッテリー（60ページ）
“インフォリチウム”に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーのことです。

オートパワーオフ機能（別冊基本編 ➡ 13ページ）
本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機の電源を自動的に切る機能のことです。

シャッタースピード
シャッターを開いてCCDに光を当てる時間のことです。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写ります。

デジタルズーム（別冊基本編 ➡ 21ページ）
デジタル処理により画像を拡大する機能のことです。光学式ズームに比べて画質は劣ります。

ドライバー（別冊基本編 ➡ 39ページ）
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピューター側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。

半押し（別冊基本編 ➡ 19ページ）
シャッターボタンを押し込まず、半分押しした状態にしておくことです。シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に合わせてピントと露出を自動で調整します。

ピント（別冊基本編 ➡ 20ページ）
被写体に対する焦点のことです。本機はピントを自動で調整しますが、撮影距離を設定することもできます。

フォーマット（別冊基本編 ➡ 35ページ）
「初期化」とも言います。記録メディアにデータを書き込めるようにすることです。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消えます。

ホワイトバランス（9ページ）
光源に合わせて色を調整する機能のことです。被写体の見た目の色は光の状況に影響されます。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく写ります。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影することができます。

“メモリースティック”（60ページ）
小さくて軽く、フロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。

露出（7ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光の量のことです。

AE（**別冊基本編 ➡** 19ページ）
「Auto Exposure」の略です。
被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能のことです。

AF（**別冊基本編 ➡** 19ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能のことです。

CCD（62ページ）
「Charge Coupled Device」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種のことです。

DCF（**別冊基本編** ➡ 4ページ）
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格のことです。

DPOF（20ページ）
「Digital Print Order Format」の略で、「ディーポフ」と読みます。印刷したい写真を記録メディア上に指定することができます。

EV（7ページ）
「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位のことです。

Exif（62ページ）
（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです。

GIF（**別冊基本編** ➡ 50ページ、本書10ページ）
「ジフ」と読みます。静止画ファイルの形式のひとつで、インターネットのホームページ上で表示を行うときに使われる代表的なものです。 本機では、クリップモーションでの撮影時にGIF形式で画像を保存します。

ISO（52ページ）
「イソ」と読みます。
カメラフィルムの光に対する感応度のことです。ISO単位で表します。数値が大きいほど高感度の撮影ができます。

JPEG（**別冊基本編** ➡ 50ページ）
「ジェイペグ」と読みます。インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式のことです。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

MPEG（**別冊基本編** ➡ 50ページ、本書22ページ）
「エムペグ」と読みます。カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮形式が得られます。本機では、動画（MPEGムービー）撮影時、MPEG形式で画像を保存します。

OS（**別冊基本編** ➡ 38ページ）
「Operating System」の略で、コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのことです。

PTP（58ページ）
「Picture Transfer Protocol」の略です。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法のことです。Windows XPから対応しています。

USB（**別冊基本編** ➡ 37ページ）
「Universal Serial Bus」の略です。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格のことです。

VGA（**別冊基本編** ➡ 18ページ）
「Video Graphics Array」の略で、640×480の画像サイズのことです。

索引

数字の前に「基」がついているページは別冊基本編のページです。

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット順

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではデジタルスチルカメラをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■ **カスタマーご登録およびご登録内容の変更はこちらのホームページから：**
http://www.sony.co.jp/di-regi/
カスタマーご登録に関する問い合わせ：ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話：03-5977-7255
受付時間：**月～金曜日　午前10時～午後6時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ **デジタルイメージングカスタマーサポート**
デジタルスチルカメラとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ **テクニカルインフォメーションセンター**
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。
製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。また、修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便で取りにおうかがいしますので、まずお電話ください。
電話：0564-62-4979
受付時間：**月～金曜日　午前9時～午後5時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話の前に以下の内容をご用意ください。

① お客様のデジタルイメージングカスタマーID
（既にカスタマーご登録されたお客様にはカスタマーIDが発行されています。）

② 本機の型名（本機底面をご覧ください。）

③ 本機の製造番号（本機底面をご覧ください。）

■ **ピクセラユーザーサポートセンター**
ImageMixer for Sonyに関するお問い合わせ窓口です。
電話：072-224-0181
受付時間：**月～日曜日　午前9時～午後5時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）
http://www.imagemixer.com

この説明書は古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、
パソコン接続に関する情報を掲載しています。

Printed in Japan